

はじめに

東北大学の腎臓内科の長澤将（たすく）です。今回は羊土社より「長澤先生、腎臓って結局どう診ればいいですか？」を上梓できたことを嬉しく思います。

思い返せば2017年の腎臓学会東部会の際に羊土社の鈴木美奈子様に書籍「誰も教えてくれなかった血液透析の進めかた教えます」の依頼を受けたのが私の執筆活動のスタートでした。そこがキッカケとなり、その後何冊かの本を出せております。

さて、今回は腎臓内科的な部分を中心に解説しております。最近ではどの分野もガイドラインなどが出ており知識のアップデートは容易になりました。ガイドラインとはこれまでの経験をもとに研究が行われたものの集大成であり、重要なものですが、その重要度を臨床研究の大きな流れの中での最新の知見という捉え方をするとよりよく使えると思います。忘れがちな部分ですが、これまでの知見に基づく診療を十分に行ったうえで最新の治療を上乘せして行うことが大切です。

また、日常臨床においては「新薬が腎臓にいい！」という見出し記事だけで薬を使うわけにはいかないので、どのような患者にどのようなタイミングで使うか、またそのときに気を付ける部分はどんなことか？を意識して解説しました。さらに日常臨床で私が先輩方から受け継いで発展させたコツなども入れております。

各章の枕として、腎臓病学の発展の歴史をいれております。このような先人たちの観察と努力のうえに診療が成り立っているんだなあと感謝していただいてもよいですし、単なる読みものとして楽しんでいただければとも思います。

今回担当していただいた編集部の大家有紀子様（ONE PIECEが好きという話で盛り上がりました）、同じく編集部の中島由介様（このキャッチーな書名を考えていただき、すぐたいへんな校正をしていただきました）、素敵な表紙をデザインしていただいた株式会社 tobufune 阿部早紀子様に感謝を申し上げます。

特に腎臓病の初学者の方においては日常臨床でよく使う場所に本書を置いてご活用いただき、本書をベースにしてさらに発展させていってほしいと考えております。ぜひ7回ほど読んでいただければと思います。

2022年 夏

東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科
長澤 将